

自治体の課題、現状

- ・地域移行の取組の現状は、令和6年度9月から5団体を実証事業をスタートさせることができ、来年度も8団体加え、13団体で行えるが、文化部の実証事業が令和6年度、7年度はできていないのが現状である。
- ・地域移行を進める上での課題は、現在クラブ指導者は教職員以外では3名いるが、実情は、ほとんどが教職員に頼っている状態である。今後は、いかに教職員以外のクラブ指導者を増やすことができるかが課題である。

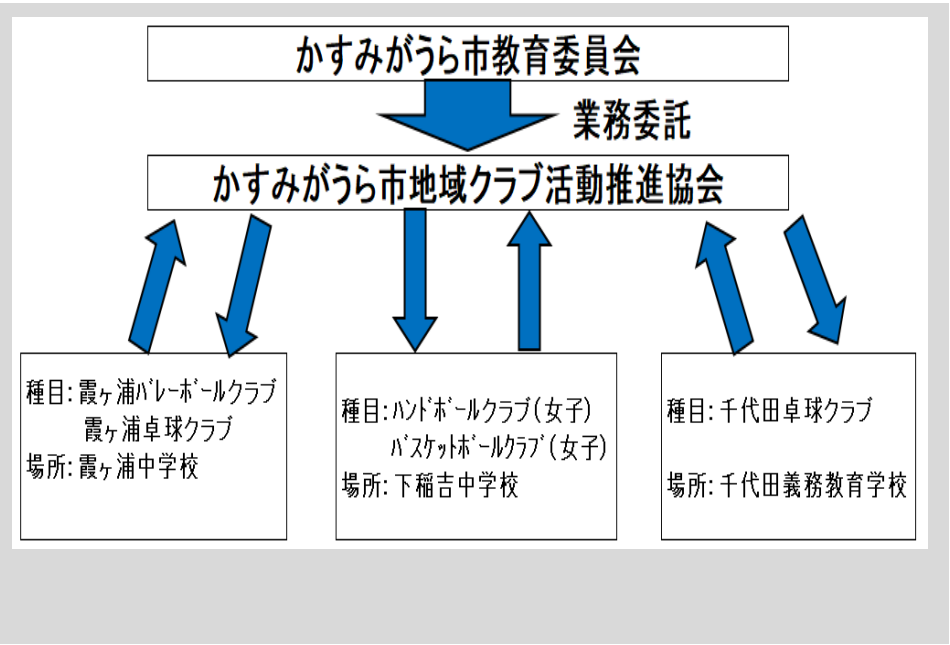
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校（義務教育学校を含む）	全生徒数	933人
域内の部活動数	39部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	73人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	NEXUSかすみがうら		
主な種目	ハンドボール(女子)、バスケットボール(女子)、バレーボール、卓球		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：8人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	各中・義務教育学校

地域移行関連の取組、成果

- ・当初、月2回程度を地域クラブ活動と位置付けてスタートしたが、実際スタートしたところ、クラブ活動によっては、**月3～4回地域クラブとして活動**しているクラブが見られた。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県かすみがうら市

自治体名： 茨城県かすみがうら市
担当課名： スポーツ振興課
電話番号： 029-898-9907

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	157 km ²
人口	39,893 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	933 人
部活動数	39部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

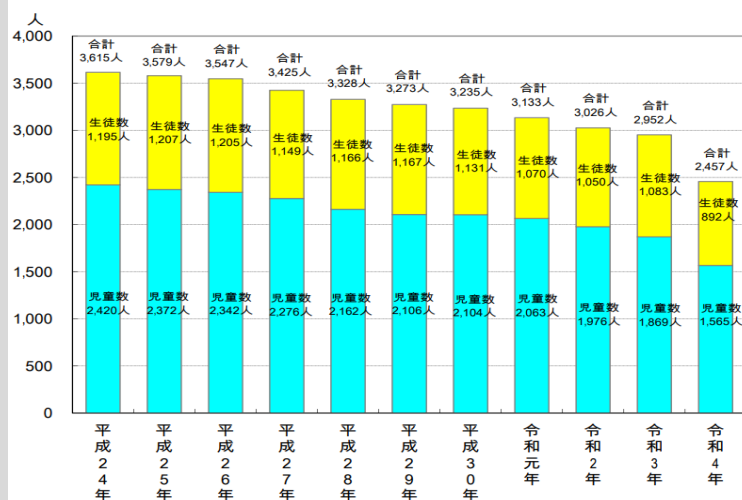
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

かすみがうら市においては、少子化に伴う学校の小規模化等により、1部活動あたりの人数や部活動設置数、教員定数の減少により学校単位での部活動運営が困難になってきている。しかも、指導者不足により専門的な技術指導が困難になっていたり、教職員の長時間労働の原因の一つになっていたりする。子どもたちにとって成長期における適切な活動や心の休養も必要になっ

てくる。

これらのことから、今後学校部活動wを継続していくことには課題があり、将来にわたり地域に運動や文化芸術活動に参加できる場をつくっていく必要がある。

市内児童数及び生徒数の推移

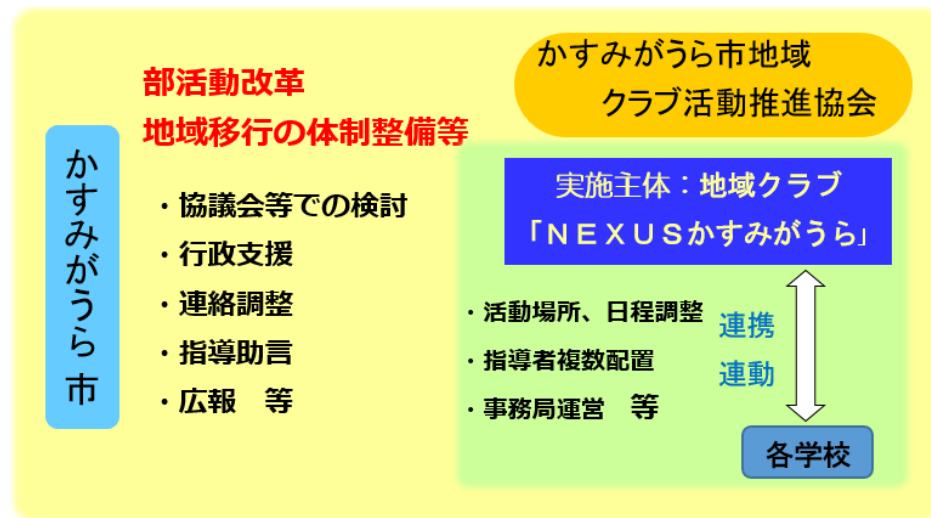


資料 茨城の学校統計(学校基本調査結果報告書)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・スポーツ振興課…部活動地域移行検討協議会、市地域クラブ推進協会事務局
生徒、保護者、教職員への説明

◎首長部局

- ・会計課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年5月	各学校へ部活動地域移行説明
令和6年6月	第3回部活動地域移行検討協議会
令和6年7月～8月	部活動地域移行説明会（教職員）
令和6年9月	部活動地域移行説明会（保護者）
令和6年9月	部活動地域移行説明会及び指導者研修会
令和6年10月	第4回部活動地域移行検討協議会
令和6年10月	市地域クラブ活動推進協会設立総会
令和6年12月	新入生保護者部活動地域移行説明会
令和7年1月	生徒・保護者・教職員へ地域展開アンケート調査
令和7年4月	部活動地域展開説明会及び指導者研修会 市地域クラブ推進協会総会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	6クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	14人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営 団体 種別	種目 ※新規のものは末尾 に（新）を付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼 務)	会費	大会参加方 法
ハンドボール クラブ（女子）	市町 村運 営型	ハンドボール	月4回	9:00 ～ 12:00	7人(7年) 4人(8年)	9月～2月	中学校体育館	3人	0人	月会費 0 円／ 年会費 0 円（な ど）	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
バスケット ボールクラブ （女子）	市町 村運 営型	バスケットボール	月3回	9:00 ～ 12:00	5人(7年) 2人(8年)	9月～2月	中学校体育館	2人	0人	月会費 0 円／ 年会費 0 円（な ど）	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
霞ヶ浦バレー ボールクラブ （女子）	市町 村運 営型	バレーボール	月3回	9:00 ～ 12:00	4人(7年) 7人(8年)	9月～2月	中学校体育館	4人	0人	月会費 0 円／ 年会費 0 円（な ど）	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
霞ヶ浦卓球 クラブ	市町 村運 営型	卓球	月4回	9:00 ～ 12:00	10人(7年) 17人(8年)	9月～2月	中学校体育館	3人	0人	月会費 0 円／ 年会費 0 円（な ど）	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●特になし

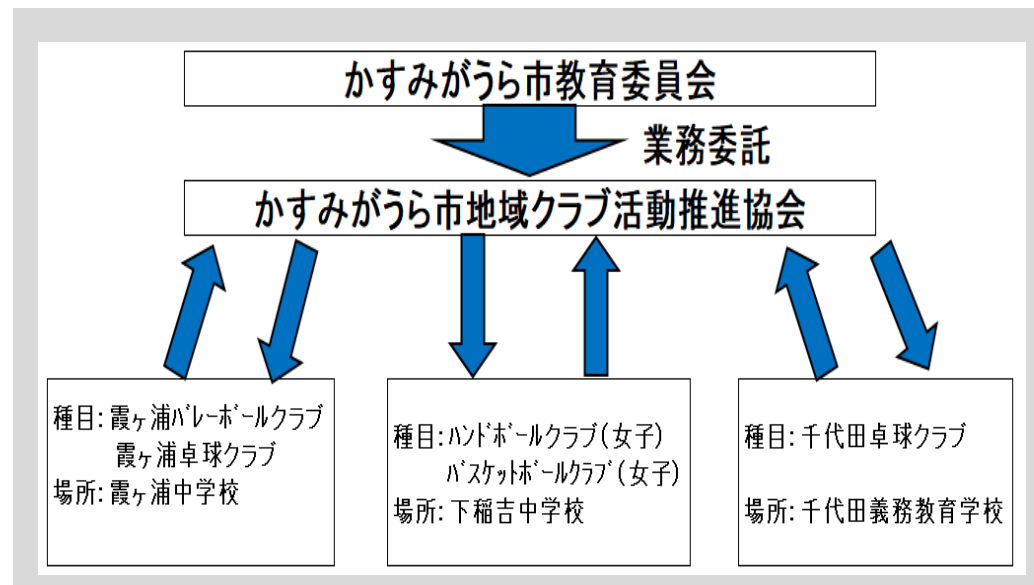
2.実証内容と成果

主な取組例

●ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、卓球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、卓球
運営団体名	NEXUSかすみがうら
期間と日数	各クラブ：9月1日～2月28日 月2回～3回程度（など）
指導者の主な属性	地域クラブ指導員、教員（兼職・兼務）
活動場所	各中学校・義務教育学校体育館
主な移動手段	徒歩、自転車、スクールバス、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

教育委員会：スポーツ振興課が市地域クラブ活動推進協会の事務局として携わる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

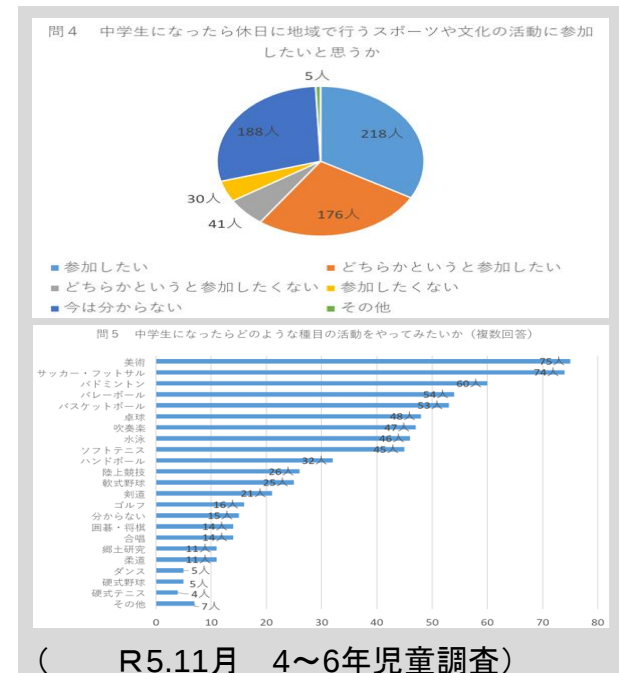
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和5年度から6年度にかけ部活動地域移行検討協議会を4回実施し、本市の部活動地域展開の進め方を検討してきた。
・令和6年度9月から実証事業を進めるにあたり、令和5年度に保護者、教職員、児童へのアンケート調査を実施予定。

取組の成果

・部活動の地域移行に関係する4～6年の児童アンケートにおいて「中学生になったら休日に地域で行うスポーツや文化活動に参加したいと思うか」では、約6割が参加したいと答えている。また、「地域のスポーツや文化に参加したとき、どんなことを期待するか。（複数回答）」では、約7割ほどが「活動を楽しみたい。」と答えている。保護者を対象としたアンケート「令和8年度以降の休日におけるスポーツ・文化活動に期待すること」の結果、回答者の約50%が子どもが希望する種目の継続をあげている。これらのことから、地域クラブで自分のやりたい種目を楽しみたいという願いをもっている。



コーディネーターの具体的な動きの実績

・コーディネーターは特に置かない。

今後の課題と対応方針

・クラブ活動を指導している関係者は多くの教職員が兼職・兼務しており、地域指導者も教職員と一緒に指導している関係で連絡調整などもスムーズにできているが、今後教職員が離れ地域指導者だけで休日のクラブ活動を行う場合、平日の部活動との指導方法の一貫性や保護者との連絡調整に課題が残る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

今度から実証事業を行うにあたり、教職員の協力を得るために、4月から今年度の部活動地域展開について説明を行い、特に、夏休み中に小・中・義務教育学校を回り、部活動の地域展開と兼職・兼務の説明と協力依頼を行った。クラブ活動指導員の確保を行った。

人材バンクの人数

14名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	4名
30代	2名
40代	4名
50代	3名
60代以上	1名

登録者属性

- ・指導できる種目
- ・指導できる中・義務教育学校
- ・指導可能 曜日・時間
- ・指導する種目の経歴及び指導歴

種目

- ・ハンドボールクラブ (女子)
- ・バスケットボールクラブ (女子)
- ・霞ヶ浦卓球クラブ
- ・霞ヶ浦バレーボールクラブ
- ・千代田卓球クラブ

資格有無

- ・クラブ運営方針に沿って指導できる者
- ・競技種目の1年以上の指導経験または3年以上の競技経験
- ・小学生以上を対象とした1年以上の指導経験
- ・教員免許
- ・活動をサポートするために有益となる各種資格

取組の成果

今年度、実証事業を行う5団体においては、ハンドボール、バレーボール、卓球で地域指導者が指導に当たってくれている。しかし、この地域指導者は、以前から指導に携わっている人で、地域クラブ活動になって新たには見つかっていない。これまで、部活動顧問であった教職員が兼職・兼務で指導に当たっているのが現状である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・地域移行の背景
国・県の地域校に関する動向・取組について
- ・地域クラブの目的
- ・「NEXUS」とは
- ・ポリシー
- ・SAFETY
スポーツ事故防止のためのチェックポイントについて
- ・指導者に贈る言葉

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 9月12日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 13人

受講者の声

- ・分かっていただけだったが、改めて指導するときには注意していこうと思った。
- ・「結果よりも成果」、「楽しさ」を意識して、クラブ活動の指導をしていくことが大切だと感じた。

今後の課題と対応方針

- ・今回の指導者研修の講師は、学校教育課の先生にお願いして行った

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

部活動及び地域クラブ活動に対する支援となる受け皿は、本市にはなく、市教育委員会が主導して運営団体を起ち上げ、支援体制を構築することで安定した持続可能な地域クラブ運営を行う。市教育委員会が一体的に主導することにより、学校現場の実情や中学生・保護者の思いも考慮しながら、行政側の事業推進や支援をなるべくスムーズに進めるようにする。

取組の成果

- ・部活動地域移行検討協議会をR 5 年度10月からスタートし、R 6 年度10月までに4 回実施した。
- ・市地域クラブ活動推進協会をR 6 年度10月に設立し、市地域クラブ「NEXUSかすみがうら」をスタートさせた。

バス等の運行実績

- 霞ヶ浦中学校のみ
- ・日数 3～4 日（月）
 - ・利用者数 39人
 - ・運行経路 霞ヶ浦中学校区

バス等の運航経費・収入

- ・人件費
市予算
- ・利用料
市予算

今後の課題と対応方針

- ・現在は部活動と併用して乗車しているが、完全休日地域クラブに移行した場合、バスの利用が可能か、今後話し合いをもつ必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 霞ヶ浦中学校
- ・霞ヶ浦バレーボールクラブ
(女子) 15人
- ・霞ヶ浦卓球クラブ30人
- 下稲吉中学校
- ・ハンドボールクラブ(女子)
拠点校 11人
- ・バスケットボールクラブ(女子)
7人
- 千代田義務教育学校
- ・千代田卓球クラブ 19人

各自治体の役割

- かすみがうら市教育委員会
- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・理解促進に向けて説明会等実施
- ・諸謝金等の事務処理

移動手段

・ハンドボールクラブ(女子)は下稲吉中学校を拠点校として行っており、他校からの生徒は保護者送迎で対応している。

事務局運営の方法

・運営団体の事務局は、市教育委員会生涯学習課職員1名、スポーツ振興課職員1名の計2名が担当している

取組の成果

ハンドボールクラブの女子は、下稲吉中以外の中・義務教育学校は、部員が少なく単独では活動ができない状況であった。しかし、今回下稲吉中学校を拠点校とした地域移行で、霞ヶ浦中学校、千代田義務教育学校の生徒がそれぞれ、自分がやりたいクラブ活動を休日に取り組めるようになったことは、成果と考えられる。

今後の課題と対応方針

今後部活動の地域移行が進んだ場合、単独でできないクラブ活動の生徒が、拠点校や合同チームで練習を行う場合、平日の活動をどのように工夫して休日の活動につなげるのか。また、休日の生徒の活動場所への送迎の課題が残る。

対応としては、受益者負担の原則から、保護者送迎又は、自転車での移動を考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

女子のハンドボールクラブは、下稲吉中学校を除いて、やりたい生徒はいるが、人数が減少しチームを組めない状況になっている。そのため、拠点校方式を取り入れ、霞ヶ浦中学校、千代田義務教育学校の生徒のハンドボールをやりたい生徒を下稲吉中学校の生徒と一緒に練習し、大会に臨むように取り組んでいる。

活動の詳細

参加人数	9人	指導者数	3人
属性	ハンドボールクラブ（女子）【拠点校】		
具体的な内容	・平日は、それぞれの学校で練習し、休日は拠点校である下稲吉中学校で一緒に練習している。下稲吉中以外からクラブ活動に参加している生徒の中には、平日は卓球部に所属し、休日は拠点校でハンドボールクラブに所属する生徒もいる。		
子供の声	● 他校の生徒と仲良くなれた。		
関係者の声	● 特になし		
運営経費	・指導者謝礼		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・部活の時と同様に学校施設を活用している。

取組の成果

・特になし

今後の課題と対応方針

・休日が完全に地域移行になった後の体育館や学校施設が今まで通り使用できるかが課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 例) イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項 (イ)

・クラブ活動指導員には、今まで部活動で行っていた地域指導者に継続してもらい、その他は、教職員に兼職・兼務の手続きをして指導にあたっている。

取組の成果 (イ)

・クラブ活動指導員には、14名登録し、その中の3名は地域の方である。残り11名は教職員による兼職・兼務で指導に当たっている。

取組事項 (ウ)

・関係団体とはまだ、連携強化行っていない。

取組の成果 (ウ)

・特になし

今後の課題と対応方針

・今後は、クラブ活動指導員をどのように集めて活動を進めていくか。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・令和5年度までは、実証事業もできていなかったが、令和5年度の10月に部活動地域移行検討協議会を行い、令和6年度10月までに計4回実施し、市の方向性を示すことができた。そして、今年度9月には5団体を実証事業としてスタートすることができた。10月には市地域クラブ活動推進協会、運営団体として「NEXUSかすみがうら」を立ち上げることもできた。しかし、クラブ指導者は、教職員に頼らざるを得ない状況であることが課題である。

●成果の評価

・成果としては、今年度実証事業を5団体でスタートできたこと。そして、来年度8団体増やし、13団体で実施する予定であること。さらに、今年度は市地域クラブ活動推進協会、運営団体「NEXUSかすみがうら」を組織できたこと。

●今後に向けて

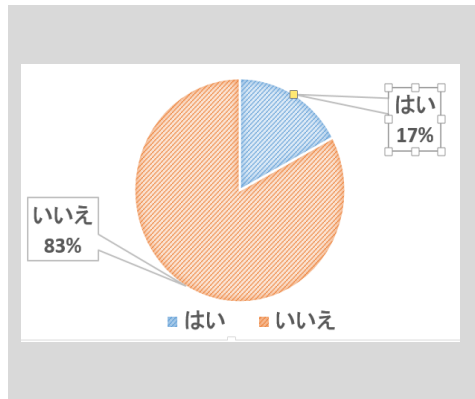
・今後は、指導者バンク登録を周知、整備することで、クラブ活動指導員を増やし、教職員に代わるように少しずつでも進めていく予定である。

2.実証内容と成果②

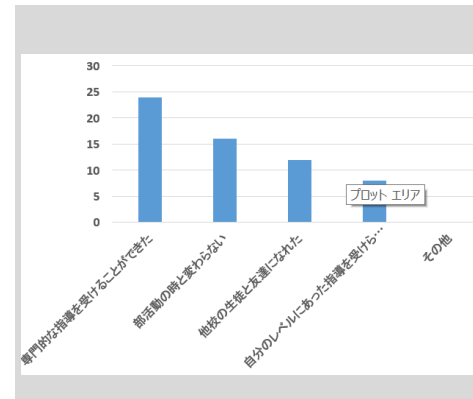
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

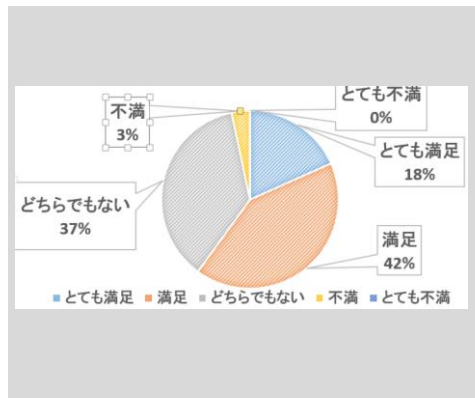
Q.1 あなたは、休日の地域クラブ活動に満足していますか？（生徒）



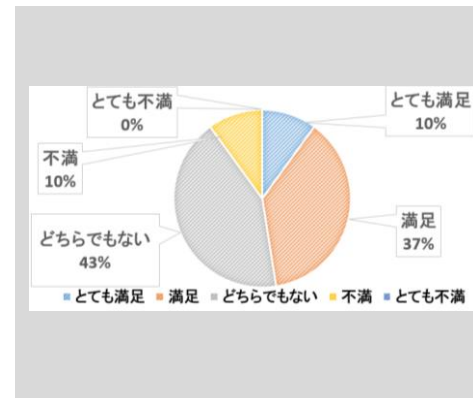
Q.2 あなたは、地域クラブ活動に参加してよかったですか？（生徒）



Q.3 あなたは、休日の地域クラブ活動に満足していますか？（生徒）



Q.4 あなたは、お子さんの休日の地域クラブ活動に満足していますか？（保護者）



●参加者の声

生徒

・地域クラブ活動になったら普段の部活動と何が違うのか？

生徒

・先生の働き方改革的にも地域クラブにするのはいいと思う。

保護者

・地域クラブ活動になると、金銭的や送迎等で参加できない子どもが出てしまうと思う。学校の放課後に学校でやる部活だから、自由に参加できて楽しい仲間ができるのではないかな？

指導者

・地域クラブ活動指導員の方と学校の教員との連携が必要だと思う。指導員の方々には、日頃から大変お世話になっているが、子どもたちの指導を行う上で、指導の仕方などを共有する時間や場所が必要。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

【保護者】

- ・地域クラブといっても、現状はクラブ活動指導員を教職員に頼っている現状では、部活動と同じである。
- ・呼び名が変わっただけで、現実的に何がどう違うのかわからない。
- ・多くは、金銭的な面や保護者送迎が難しい。
- ・継続して指導者を確保できることが必要。現状は父母が指導員になって面倒を見ている状況なので指導にも遠慮が出るし、次年度がどうなるか不安定。
- ・地域クラブをやるのであれば、制度を確立させて、きちんと教えられる指導者をつかう木してからやってほしい。
- ・外部の指導者がしっかり教えてくれるのは有難い。先生方の負担もへるなら良い方針だと思う。今は部活と兼務しているので大変そうですが……。今は拠点校で活動しているが、練習場所が離れていて送迎しなければならないとなると長期休みの平日は送迎が難しいと思う。

【教職員】

- ・地域クラブ指導員が教員の異動に伴い毎回変更になるのかどうかで、指導員をやるか決まっている。今見ている子どもたちは最後まで見届け、移動先では、指導員を希望しないという選択ができるなら指導員を希望したい。
- ・教員の兼職・兼業の形は、本当の働き方改革にはつながらないので、その先を検討願いたい。
- ・個人的な意見ですが、部活動は土日だけではなく、平日も移行していただきたい。激務に追われ、部活のない日でさえ残業が多い。部活のために、プライベートがなくなったり、仕事が終わらなかつたりなど、かなりの負担になっている。自分のやったことのない競技だと、ルールを知らなければならぬことや、レフェリー資格を取らないといけないために余計な時間や費用がかかるなど、その他にも負担が多い。勝った時の喜びだけでは続けられない。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ハンドボールクラブ（女子）の活動の様子】



【霞ヶ浦卓球クラブの練習試合の様子】



【千代田卓球クラブの活動の様子】



【バスケットボールクラブ（女子）の活動の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

市部活動地域移行検討協議会設置、検討開始

令和6年度実証事業部活動の選定、学校現場との調整

令和6年

市部活動地域移行検討協議会、保護者・教職員への説明

生徒、保護者への説明、地域クラブ活動の開始（実証事業）、市地域クラブ推進協会設立

令和7年

令和7年度地域クラブ活動の開始（実証事業の拡大）

令和8年

市総体以降、全部活動地域クラブ活動へ移行

●ステークホルダー

学校、市教育委員会スポーツ振興課、学校教育課、生涯学習課

●経過

令和5年度10月に市部活動地域移行検討協議会を設置し、中・義務教育学校より令和6年度に実証事業を行う部活動を募った。2月に2回目の市部活動地域移行検討協議会を行い、方向性について確認した。

●実施にあたって生じた課題

教員以外に指導できる人が見つかるのかということ。

●実施内容、工夫した点等

人数が少ない部活動は、拠点校、合同チームで活動を行うということ。

●ステークホルダー

学校、市教育委員会スポーツ振興課、学校教育課、生涯学習課、市スポーツ協会

●経過

市部活動地域移行検討協議会を6月と10月の2回実施。令和6年9月から地域クラブ活動（実証事業）開始。夏休み中に市内小・中・義務教育学校の教職員に部活動地域移行の説明会を実施した。9月には中・義務教育学校7・8年生保護者に部活動地域移行の説明会を実施した。9月2週目から地域クラブ活動開始前に、クラブ活動指導員を対象に、部活動地域移行の説明会とコンプライアンス研修を実施した。10月には、市地域クラブ活動推進協会を設立し、任意団体「NEXUSかすみがうら」を立ちあげた。

●実施にあたって生じた課題

多くが兼職・兼務の教職員が指導している。教職員以外のクラブ活動指導員は4名であった。

●実施内容、工夫した点等

教職員・保護者対象に部活動地域移行に関するリーフレットを作成し、説明会の折に配付した。また、月2回の地域クラブ活動で実証事業がスタートしたが、3回ないし4回とも地域クラブ活動で行うクラブも出てきた。スムーズな地域移行のスタートができた。

3.今後の方向性

